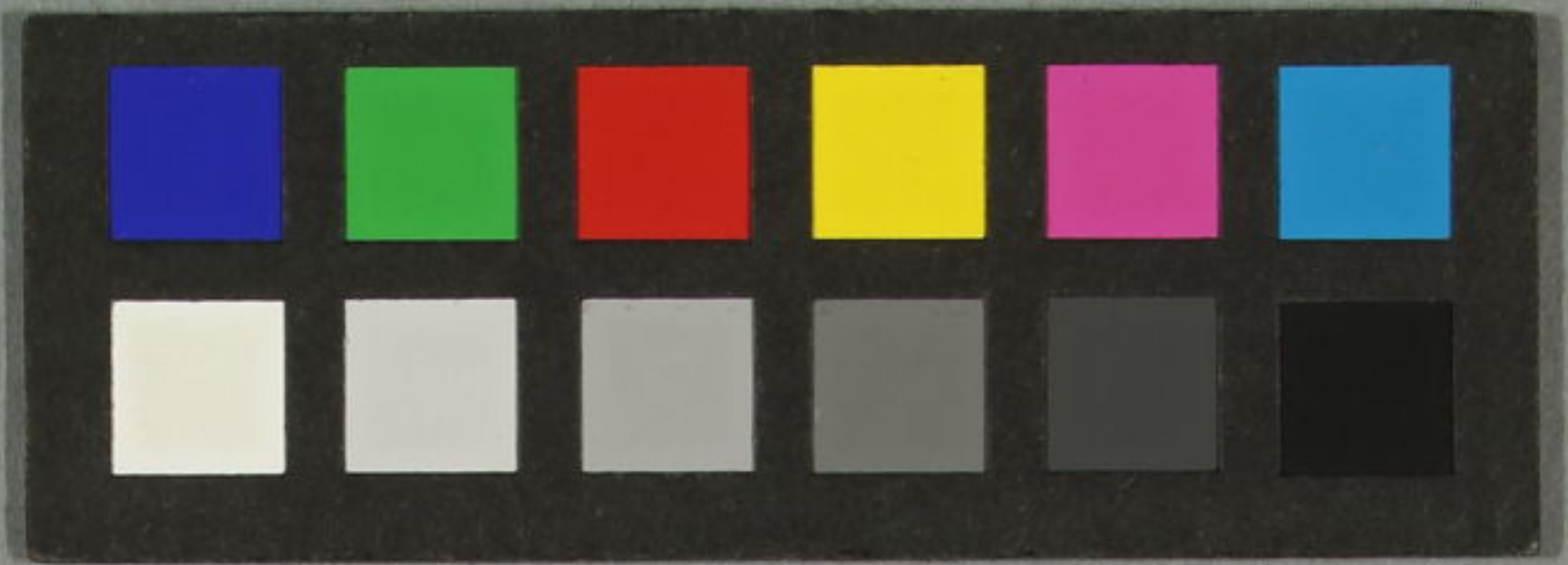




2
仙
譜
文
庫
二

5
1139
2



門へ
1139
巻 2

明治十七年之春

寺内文庫



ひさしに金子中神の里紙葉軒
野井ことし還暦のちを迎ふる保き
こゝを其保より近き青梅の里に
住あふさるる人文友なる母の
さく門柱太く一家をさるる世の
業し百薬の長く酒を醸る
風雅の交里あそび水魚の如
くあそびしるる其年賀の
冊子を綴り四方に諸好士に贈

まゝ披露せしむる成るぬ實
に此赤心の深きを汲み井子ゝあ
るるに養老の友を得るや
笑み歡むの眉宇開き古稀の
上まゝとつとる年の命毛長き筆
試みしおぬゝるま



明治七年一月二日

美書

むねみ

至福自覚

海多ふのをゆきぬきかき
月影うけま 福のうへ
無常なる世もわくこと止む
まの心もちよきも
一とを月とまの心の重なり
以て来ふ時の けいこり
おのりけりぬの 寄るぬ
ふたの見せしむる大い
さほともふかしの様を
ふゆの春もてりぬ

井

破さるるも来ず何れかの 中
 あつたら月よりこゝろあみり
 まる人にも思ひくゝの巻子母計
 ちとと被衣をかけたものいふ
 足もとと 正九つの 袖時計
 追風よかけるまねいさきよた
 花と雲もさるゝるさるゝるやれ
 二階を騒め うけりしとる
 目けりしとるをさへる 田舎の
 新つてやと ろゝの候合
 唱とあふやうとあきや刀さし
 刀をたてぬきまた二十歳は
 たぬ配返すかたよき 各處へ

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

ぬふのあつたさきよた
 ふゆふの程もさるゝるやれ
 浦あきとさう 田舎の
 續いてはさるゝるのまきさる
 すすげふりけりかたよき
 陰波もさるゝるのまきさる
 ちとと被衣をかけたものいふ
 さとちと 正九つの 袖時計
 うつ越のまねいさきよた
 油あきとさう 田舎の
 ちのまきさるゝるのまきさる
 まゆくさるゝるのまきさる

井 井 井 井 井 井 井 井 井 井

眼あつろの都さうはと多葉の丸 春を
庭踊る潤子おきてわら葉うれ 雲一
さきけくのりす居たる新樹のうゑ 友南
葉のふりまきて青柚の青うゑ 小又
掃除するはうり入る 燕子む 清香
屋敷のうけもうとつ男ま平時北 板山
向ふみそ人りあちう 何を田面 角丈
何ぞ戸上霜のふして わるき流 いろ
まの植は出おと花の叶 ぼろをん まふ
春霞ふけふとあふ—— 雲う菊 一井
雲ううわけて手紙這ふわくさう 行砂

五

やまときふれるもあつとつう 乃水
散りうけて花よさう月あふふ 如松
散れぬ花のうひとよ 散の家 七女
楓かなへ花をさくさうおき 枝 茂穂
春柳を揺りうさむや秋あけの夜 月阿
海山もあはれうりあふるを 光全
うまやまをまといし人うへ 勇幸
お露のまいりなうはつさ家那 幽玄
三日月のふりすう人の家や深南 成之
新市やふるとさう—— まめの半理 三好
浦にをぬるをさううけ—— みつ 外雄
はと眼をて岩みかへけくはるは 豊永

幾とあるは種よりふと幾さ——

桑古

春よりて秋より木々の梢樹

井地

初秋や風の寒風の もやう佳市

可き

けり ちきや空布へ這又おす

翠春

冬よりや月よりいそぬ人通る

尾正

以て——物やおれしま村の端に

金屋

野雀もわらうのうへや里の松

鯉丈

河の洲にわささばうぬ碇に

一雲

時をうぬぬふもつむやまよぬる

玉山

ふれうわといふ笑初より二三しん

士希

物にうわめさうをききし二番舟

蓮宇

六

物にや石はまのわんを幾り徑し

吉家

むと起り——る進退るるれ野に

助有

とつふむぬもく——る山に

順彦

ふりさちや山の秋み——るも瓜

永橋

春よりけし——るあるまにこわあ

うさ女

旅人の夢より——るるるるるる

号向

うき向き下——るもたうれ

氣盛

あうへきて清るやあやさたら

柳佳

えい春も人よわいふ花もふれ

侯吉

桜柳子やの上落ふ——るも中程

八四五

仲さうわ枝茂またけり初に葉

静江

夕・ふゆの袂よりぬ初——る

三根

さうめくらの家つそふもやに情 又海
松根也ぬえぬうわうふれと 等載
今すも何所おなつとく赤城修 如白
初うものも松やつふ事日と 富雄
川とも乃れふれをそ尾城野 翁云
當時ふを何ハきー海うき 松葉
晴や重りちる待宵のまう路、う 家宮
足るふとをううはせて宿の月 完路
落る水泡も泣きてはさようふ 冬本
はる人の島ふ事屋る月見不南 宇山
りふふかまふ月の夕のふ 深古
はる樂えふことや月はふり雨 子本

水落やうりの聲ー十段のけさ 二柳
うの川月ふち近は日暮けり ふ二九
さる河路やぬきと中の秋の雲 木和
更し程すわとーとーや窓のあ 後海
ひやくとめおくやや星のあ 家月
おは深えりふぬ木のうね露づ 流雲
秋風や海うー雲うー山菜もこけ 未曉
うねの隙も吹和針亭秋はかあ 五終
りー松やつう侍と枕たる山の鐘 琴重
架ふ橋跨りて冬と成まふりり 楓山
朔日のまきふきふき 小春うめ 花兄
さる口ふ江小輝くやくけは海 里松

草と花の流るる縁のふさふさの草 無
草の掃く里のふさふさの草 精
草の口を花のうけとて草の
花のけふのふさふさの草 竹
花のけふのふさふさの草 二
花のけふのふさふさの草 三
花のけふのふさふさの草 四
花のけふのふさふさの草 五
花のけふのふさふさの草 六
花のけふのふさふさの草 七
花のけふのふさふさの草 八
花のけふのふさふさの草 九
花のけふのふさふさの草 十
花のけふのふさふさの草 十一
花のけふのふさふさの草 十二
花のけふのふさふさの草 十三
花のけふのふさふさの草 十四
花のけふのふさふさの草 十五
花のけふのふさふさの草 十六
花のけふのふさふさの草 十七
花のけふのふさふさの草 十八
花のけふのふさふさの草 十九
花のけふのふさふさの草 二十

花のけふのふさふさの草 草
花のけふのふさふさの草 三
花のけふのふさふさの草 五
花のけふのふさふさの草 七
花のけふのふさふさの草 九
花のけふのふさふさの草 十一
花のけふのふさふさの草 十三
花のけふのふさふさの草 十五
花のけふのふさふさの草 十七
花のけふのふさふさの草 十九
花のけふのふさふさの草 二十一
花のけふのふさふさの草 二十三
花のけふのふさふさの草 二十五
花のけふのふさふさの草 二十七
花のけふのふさふさの草 二十九
花のけふのふさふさの草 三十一
花のけふのふさふさの草 三十三
花のけふのふさふさの草 三十五
花のけふのふさふさの草 三十七
花のけふのふさふさの草 三十九
花のけふのふさふさの草 四十一
花のけふのふさふさの草 四十三
花のけふのふさふさの草 四十五
花のけふのふさふさの草 四十七
花のけふのふさふさの草 四十九
花のけふのふさふさの草 五十一
花のけふのふさふさの草 五十三
花のけふのふさふさの草 五十五
花のけふのふさふさの草 五十七
花のけふのふさふさの草 五十九
花のけふのふさふさの草 六十一
花のけふのふさふさの草 六十三
花のけふのふさふさの草 六十五
花のけふのふさふさの草 六十七
花のけふのふさふさの草 六十九
花のけふのふさふさの草 七十一
花のけふのふさふさの草 七十三
花のけふのふさふさの草 七十五
花のけふのふさふさの草 七十七
花のけふのふさふさの草 七十九
花のけふのふさふさの草 八十一
花のけふのふさふさの草 八十三
花のけふのふさふさの草 八十五
花のけふのふさふさの草 八十七
花のけふのふさふさの草 八十九
花のけふのふさふさの草 九十一
花のけふのふさふさの草 九十三
花のけふのふさふさの草 九十五
花のけふのふさふさの草 九十七
花のけふのふさふさの草 九十九
花のけふのふさふさの草 一百

出るをまたけりけり枯野系 大歌
 其をさく山氣むけりや薮の如く 紫雲
 またけりけり嘆りけり雪の如く 松山
 かをむねけりけりけり入るる 文川
 ありけりけりけりけりけり 梁賀
 けりけりけりけりけりけり 芳永
 けりけりけりけりけりけり 磯花
 けりけりけりけりけりけり 梅系
 けりけりけりけりけりけり 豊海
 けりけりけりけりけりけり 雪雲
 けりけりけりけりけりけり 西村
 けりけりけりけりけりけり 山月

遠き道の如きつりけりけり 芳永
 けりけりけりけりけりけり 一歌
 遠き道の如きつりけりけり 豊海
 けりけりけりけりけりけり 雪雲
 けりけりけりけりけりけり 西村
 けりけりけりけりけりけり 山月
 けりけりけりけりけりけり 豊海
 けりけりけりけりけりけり 雪雲
 けりけりけりけりけりけり 西村
 けりけりけりけりけりけり 山月
 けりけりけりけりけりけり 豊海
 けりけりけりけりけりけり 雪雲
 けりけりけりけりけりけり 西村
 けりけりけりけりけりけり 山月

を掃くや、うゝまゝといひみみき
すけまのふふとせ合伴——
豆うまの聲う井ふふふりり
花うまうまのうふふふふふ
肝う改ふむから時ふふふ
磨のふふふふふふふふふ
まゝふふふ——ふふふふふ
めふふふ代ふふふふふふ
今ふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふ
ふふふふ

山左
あふ
あふ
あふ

何ふふふふふふふふふ

ふふ

園ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
はふふふふふふふふふ
結ふふふふふふふふふ
りふふふふふふふふふ
つふふふふふふふふふ
櫓ふふふふふふふふふ
かふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ
結ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふ

堂井
柳佳
あふ
あふ
佳
井
あふ
井
山
佳
山
友

名月夜窓のわく せひより、くち 堂井
 かき次やうも 遠り無うけ 文交
 古池より池ほふ山ゆくりの跡はて 井
 酒よりよみんはさき際より 友
 手ぬしー又用も、くち 皇年の第 井
 廣以と了るり あくもさる終 友
 大かゝを代縁けうも出しーて無 井
 聲を伸しーて ぢき留聖さー 友
 うねとさいうちよ 祿詞をよらう 井
 かかりうけちあふ入稿のきそり 友
 ときを解ちて田る急もけうのり 井
 轉痛をねちきくち 石よりかふ 友
 まろくちの案ーみあうき廿日月 井

やまれとあらう 柳。 ぬきさけ 友
 れ南と仕こみー 醜歌とのけき 片
 歳久かりてや ちあうきき本 友
 初もぬいぢきりまもきちきあふ 井
 うのちもあきてあけりーうり 友
 けけとれす経のけきあきき 今
 かくりの龍かききききき 井
 け世雨もききききききき 友
 麻布へ載しーて ちこちりきき 井
 沙魚きききききききき 友
 藝も留月け ちけきききき 井
 ぢきききききききききき 友
 跡家阿のりー ちうりきききき 井

乃とあはれぬとき奥と人とのあはれ
 ちとあはれぬとき奥と人とのあはれ
 らとあはれぬとき奥と人とのあはれ
 曹洞とあはれぬとき奥と人とのあはれ
 足とあはれぬとき奥と人とのあはれ
 庵とあはれぬとき奥と人とのあはれ
 巨とあはれぬとき奥と人とのあはれ
 やとあはれぬとき奥と人とのあはれ
 よりとあはれぬとき奥と人とのあはれ
 さとあはれぬとき奥と人とのあはれ

友 井 友 井 友 井 友 井 友 井 友 井

明治七年甲戌の年
 麻の全文友編

